

1 全体計画

学校の教育目標

考える子 やさしい子 やりとげる子

令和2年度学校経営方針

明るい学校 豊かな心をはぐくむ学校 品位ある学校

本校の捉える「確かな学力」

- 基礎的、基本的な学力の定着
- 児童の主体的に学び続ける力の育成
- 思考力・判断力・表現力の育成
- 体力の向上

令和2年度の指導の重点

<各教科>

- 基礎的、基本的な内容を身に付けさせるために個々に応じた学習を取り入れる。
- 読解力の向上に向けて、手立てを工夫して授業で実践する。
- 少人数指導の充実と活用を図る。
- 授業でのICTの積極的な活用を進める。

<道徳>

- 生命尊重や共に生きる意識、敬愛する心を育てる。
- 自己を見つめ、よりよく生きようとする心を育てる。

<特別活動>

- 集団の一員として、よりよい生活や人間関係を築くために話し合い活動の充実を図り、自主的・実践的な態度を育てる。

<総合的な学習の時間>

- 主体的に学ぶ意欲を大切にし、一人一人の興味・関心に基づいた課題を追及する指導計画を立案し、活動を展開する。

<生活指導>

- 常に「対応前の未然防止！」の意識をもち、教職員で連携して児童の様子を注意深く見ていく。
- 児童に基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、規範意識を高める。
- 一人一人の児童に対する理解を深める。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けて、新しい生活様式に基づいた指導を進める。

<進路指導>

- 生涯学習の視点を踏まえ、社会の一員としての自覚を育てる。

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫

- 少人数指導を推進し、個に応じた指導を行う。
- 学習規律について共通理解を図り、徹底させる。
- 基礎的、基本的となる内容を繰り返し学習する。
- ICTの効果的な活用を図る。
- 外部講師を積極的に活用した授業の実践を進める。

教育課程編成上の工夫

- 週の指導計画の立案および、確実な実施を進める。
- 主要教科の時数を確保した詳細な指導計画を作成し、計画的に指導していく。
- 学校評価を活用し、カリキュラムマネジメントを進める。
- 学校図書館を積極的に活用する。

評価の工夫

- 形成的評価により、指導と評価の一体化を図る。
- 評価を基にした個に応じた指導を展開する。
- 自己評価や他者評価を取り入れ、多面的に評価をする。
- 習熟の状況を自己評価し、自己の課題解決に努める指導を行う。

校内研究・研修の工夫

- 児童が主体的に考え、協働的に学び合うための指導法を工夫する。
- 児童の読解力向上を目指し、指導法や手立ての工夫について研究を進める。
- 若手教諭の育成に向けてOJT推進委員会を編成し、組織的に進める。

家庭・地域との連携の工夫

- 地域の素材・人材を教材化し、地域を生かし、地域を学ぶ活動を取り入れる。
- 保護者や地域の人々、の教育活動への参加を推進する。
- 学習習慣の形成について、家庭との連携を図る。

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

国語科の重点

- ・聞き方・話し方のルールを意識させる。
- ・話し合い活動を充実させる。
- ・説明的文章や文学的文章の読む力をつける。
- ・作文指導などを通して、書く力をつける。
また字を丁寧に書く習慣を身に付けさせる。
- ・読書活動を充実させる。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	・内容理解に課題がある児童がいる。	・内容を理解する力に課題がある。	・「話は目と耳と心で聞く」を徹底させる。また、聞いた話を振り返らせ、復唱させるなどする。
	・文章の内容を正確に読み取れない児童がいる。	・叙述を意識した読み取りができていない。	・家庭学習の指示を明確にし、音読の練習を積み重ねていけるようにする。授業では、順序に気を付けたり、登場人物の気持ちや様子を丁寧に読み取ったりしていく。
	・音読が苦手な児童がいる。	・活字を読むことに慣れていなかったり、読む経験が少なかったりしている。	・読書指導や音読の課題を出し、読むことの経験を積み重ねていけるようにする。
	・経験したこと、伝えたいことを文字にすることが難しい児童がいる。	・書き方がわからなかったり、書くことに抵抗があったりしている。	・教科書教材を広げ、「中野の子ら」を参考に良い文を視写する学習を取り入れる。実際に書いた文を教材に取り上げ、文章力向上につなげる。
	・表記に誤りが多い児童もいる。	・記述内容および書く速さの個人差が大きく、個別指導が必要である。	・助詞、拗音・促音、句読点などの表記の学習については、プリント等で練習する。また、視写をできるだけ多く取り入れる。
・字形を整えて丁寧に字を書くことに課題がある児童がいる。	・丁寧に書こう、という意識が低い。	・丁寧に視写に取り組めるよう時間を十分に確保し、落ち着いて課題に取り組めるようにする。ひらがな五十音表を教室内に通年で掲示する。	

- ・静かに話を聞く環境を整えているが、一度で内容理解を理解することが難しい児童がいる。
- ・経験したこと、観察したことを短い文で書くことはできるが、主語と述語が整わない文を書く児童や、長文に表したり、自分の思いや考えを書いたりすることが苦手な児童がいる。
- ・文章の内容を正確に読み取ることが難しい児童がいる。
- ・漢字への意欲・関心は高いが、習熟においては個人差が大きい。
- ・語彙力に課題がある児童がいる。
- ・自分の思いや考えを友達に伝えることが苦手に思う児童がいる。

- ・内容を理解する力に課題がある。
- ・主語と述語の整った文が書けない、どのように表現したらいいかわからない児童、自分の考えがもてない児童がいる。
- ・叙述を意識することで、何を伝えたいのか正しく捉える力を付ける必要がある。
- ・繰り返しの練習に対する取り組み方に差がある。
- ・言葉の意味がつかめず、文章全体の意味をとらえられない。
- ・話さなければならない場面で、話し方が分からず言いよどんでしまう。

- ・「話は目と耳と心で聞く」を徹底させる。また、聞いた話を振り返らせ、確かめる。
- ・黒板に項目を書き意識させる。
- ・モデル文をはっきり示す。
- ・「何が」「どうした・どんなだ・何だ」の主語と述語が整った文づくりを取り入れる。
- ・書いた文章を友達同士で共有する時間を設定する。
- ・日頃から日記を書かせたり、教科書の視写を繰り返させることで、文章力を付ける。
- ・音読を家庭学習で続ける。
- ・図書や朝の読書の時間を通し、本を読む習慣の定着を目指す。
- ・文章の構成を確認し、他の文章との共通点や相違点に気付かせる。
- ・学習の仕方を個別に指導し、必要に応じて、保護者と連携を取りながら学習を進める。また、定期的に漢字テストを行い、定着を確認していく。
- ・書写の授業と連携し、止め、はね、はらい、そりなどを意識し書けるようにする。
- ・語彙を増やしていくために、新出漢字の学習の際には、習う漢字を使った言葉をできるだけ多く見付けさせたり、教科書に出てくる語句は授業で意味を確認し、例文を作ったりし、どんな場面で使えるのか確かめる。
- ・話すことに限らず、伝えたいことを「はじめ・中・おわり」の構成で、わかりやすく伝えられるよう指導する。
- ・日直のスピーチを取り入れ、話す経験を積ませる。

- ・話を聞く態度として、反応することや話し手にすぐ体を向けることが自ら行うことができていない。
- ・漢字を読むことや正しく書くことが不十分な児童がいる。丁寧に書ききる意識が低い児童がいる。
- ・漫画の小説を好んで読んでいる。進んで幅広く読書ができるようにしたい。
- ・書くことについては、苦手な児童が多く、自分の考えを書くことができない。多くの児童がくわしく書くことができていない。
- ・話の中心をおさえて話せるようにしたい。

- ・反応の仕方や返事することなどを丁寧に指導し、その都度反応することの意識を高めさせる必要がある。また、話の要点をおさえられるよう指導する。
- ・丁寧に、継続して取り組み続ける意識を高める必要がある。練習が成果につながるような指導も必要である。
- ・朝読書や図書の時間、読み聞かせなどの時間を有効に活用し、学校司書とも連携をとり、多様な読書を勧めていく。
- ・書き方のモデルを示すなど丁寧な指導が必要である。言葉の世界を広げ（言葉の意味を大切に）使える語彙を増やす。文章を繰り返し書く必要がある。
- ・順序立てて話すことはできるが、話の中心が分からなくて質問できない児童がいる。また、一つのことに対し詳しく表現できるようにする必要がある。

- ・5W1Hを意識して丁寧に話し、話の経過や内容、要点を確認しながら指導していく。全校朝会でのお話、日直の話や授業中の発表なども活用して、話を聞く姿勢や相手が伝えたかったことの内容を確認していく。
- ・止め、はね、はらい、筆順などを意識して丁寧に書くこと、間違いをすぐに直して書き直すことを毎日のノート指導で習慣づける。漢字テストで満点を取るための練習を個別に確認していく。
- ・書き取りテストのやり直しを何回か繰り返す。
- ・登場人物の心情理解を中心に感想を伝え合うことで様々な考えを知り、心情理解を深めていく。図書の時間に幅広い分野の本の読み聞かせをする。
- ・書き方もモデルを真似ること、日記や学習の感想などを書くことで日常的に文章を書く習慣を身に付ける。また、参考になる作品の紹介や発表の機会を多く設け、次の書く指導につなげていく。
- ・漢字練習や授業を通して、意味を知った言葉を直ぐに繰り返し活用させる。
- ・授業の中で、互いに聞き合い、質問し合う機会を多く設け、交流時のポイントや話形を提示し、分かりやすくする。また、自信をつけていけるように助言、評価し支援していく。

4年

- ・話を聞く、発表することに関して苦手意識がある児童が多い。
- ・進んで読書に取り組む児童が少ない。文章に親しみ、正しく読み取る力、心情豊かに読み取る力を身に付けさせたい。
- ・書く力は、徐々に付いてきているが、差が大きい。
- ・言語についての知識・理解に個人差がある。また、止め、はね、はらいに気を付けて丁寧に字を書く習慣を身に付けさせたい。

5年

- ・語彙の理解に課題がある。文章中の熟語や修飾語の理解度に個人差がある。

- ・日ごろから話を聞く意識をもたせる必要がある。
- ・朝読書、図書の時間など定期的に読書の時間を確保する必要がある。文章の内容を正確に理解する力を付ける必要がある。
- ・書くことがなかなかできない児童には段階をふませる必要がある。
- ・言葉の広がり、繋がりを意識して、漢字そのものの意味や熟語、文例を示し、練習に取り組ませることが大切である。

- ・文章の読解に重点を置いている反面、語句一つ一つについての確認が十分にできていない。新出漢字の学習についても授業内での時間確保が

- ・児童相互に意見や感想を共有できる学習活動を設定する。
- ・授業中、聞いた話を振り返る活動を日々取り入れる。
- ・抑揚や間のとり方、「」などに気を付けて範読を示し、言葉のまとまりや心情をつかませることを意識して範読、評価をし、進んで音読を繰り返し行わせる。
- ・登場人物の行動や会話に注目させ、登場人物の性格や気持ちを考えさせるようにする。また、読書の機会を多くもつ。
- ・中心となる言葉を見付けたり、接続語や指示語の役割を理解し、段落相互の関係を考えたりしながら読み取らせる。
- ・書く力が不十分な児童には、何を一番伝えたいのか選択をさせた上で、例文を示して、文章のつながりや段落構成をつかませながら書かせる。
- ・日記や学習の感想などを書くことで日常的に文章を書く習慣を身に付ける。
- ・家庭学習や学級での空いた時間を活用して、漢字学習に取り組む時間を確保する。絶えずノートを個別に確認し、声をかけ、前向きに取り組めるよう助言する。
- ・言葉の意味調べを積極的に行わせ、四字熟語や対義語も授業で取り扱う。文作りを日常的に行い、文の中で使いながら学ばせる。

- ・授業導入場面で、振り返りや言葉の学習の時間を設ける。
- ・話や文章の中で新出語句を使えるよう、繰り返し練習をさせたり、言葉の意味調べをさせて確認したりする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを書くことには抵抗なく取り組む児童が多い。しかし、書いた後に自分の考えを伝えたり、相手の考えからさらに深めようとしたりすることに課題がある。 ・学習したことを生活場面に生かしてきれていない様子がある。 	<p>難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み取りや感想を書かせる活動は全員に確保できているが、伝え合いの活動は挙手発言する児童が中心になっている現状がある。 ・書き方のポイントを丁寧に指導する必要がある。 ・国語科への抵抗感を無くし、国語の学習が楽しいと感じる授業構成を行うとともに、導入や展開においての工夫が必要である。 ・学んだことを生活場面などでも活用できるように、発展課題の指導や他教科での活用につながる指導を意識する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が意見を伝え合う機会を確保する。その上で、相手の意見を聞いて自分の考えを深めるようにする。 ・普段から書く活動を取り入れていく。 ・言葉あそびや詩の音読、読み聞かせの時間を取り入れたりする。また、おすすめの本や読書コーナーを設ける。 ・文学的文章や説明的文章を、登場人物の心情変化や、段落構成に注目させて、深く読み解く授業を展開する。その際、ハートメーターを使用するなど、文章とは違う形で表現させる機会も設け、国語に親しみやすい構成にする。 ・単元の最後に、学びを活用して取り組む課題を設定する。また、他教科での「書いて」表現する場面や「伝える」発表場面では、国語で取り組んだことを振り返らせる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・書く能力に関しては、依然として苦手としている児童が多い。考えをまとめられず、自信がもてない実態がある。 ・読む能力に関しては、説明的文章の読み取りの方が、文学的文章の読み取りより苦手としている児童が多い。読書に親しむ機会を意識的に設定することも必要である。 ・「話す・聞く能力」に関しては、できる範囲で人 	<ul style="list-style-type: none"> ・書き方のポイントを丁寧に指導する必要がある。また、書くことに抵抗をなくすよう、日頃から様々な場面で書く活動を取り入れて、機会を増やしていく必要がある。 ・筆者の意図、話の筋道を追いながら、説明的文章をよむこと、文学的文章では、登場人物の心情の変化や関係について、自分の感想をもち、共有し深めていくことが必要である。 ・伝え合う活動を可能な限り取り入れていく。その 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の中で、文と文との接続の関係や構成について理解できる活動を取り入れる。また、他教科での「書いて」表現する場面や「伝える」発表場面では、国語で取り組んだことを振り返らせ、学習を深める機会を設ける。 ・段落構成やキーワードに着目し、文章の構造を理解しながら読み進める活動を取り入れる。また、登場人物の心情の変化や他との関係についての考えを交流する活動を取り入れる。 ・自分の考えを文章や話し合いで伝え合う、対話的な授業の

の前で自分の考えを発表する機会の設定し、根拠をもって説明することを大切にしている。積極的に関われる児童とそうでない児童の差が大きい。

際、自分の意見に対する根拠を述べることを常に意識させ、それを基に、自分の意見を重ねていけるように話し合いを活性化させていくことが必要である。

実践を可能な限り進めていく。話し合いの目的を確かめ、それを意識しながら話題に沿って話し合えるように指導していく

(2) 社会科

社会科の重点

- ・児童が興味・関心をもつことができる事例や資料を提示して授業を展開する。地図、グラフ、写真資料等の読み取りを継続的に行い、読み取る力を養う。同時に、基本語句を丁寧におさえる。
- ・問題解決型の学習展開できるように学習問題を設定し、自ら調べ解決していこうとする力を養う。また、問いに対し、少人数やグループ等で話し合い、伝え合う活動を日常的に取り入れていく。その際、考えた根拠を大切にしていく。
- ・調べ学習、社会科見学、体験学習などのまとめにおいて、新聞やパンフレット、意見・感想交流、発表会など様々な方法で表現させることで表現する力を養う。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科の学習に対して、興味・関心がある児童が多いが、初めての社会科に戸惑っている児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心を活かして取り組んでいけるように問題解決型の授業作りを進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を設定し、単元を通して問題解決型の授業を構築していく。(つかむ、調べる、まとめる、いかす) ・写真や地図、資料などを適宜提示して、興味・関心を高め問いを工夫して自分の考えをもてるようにする。できる範囲で発表・交流させ、自信を持たせ楽しんで学べるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験活動を通して学習問題を解決する方法を学ばせていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域素材、人材を活かし、資料を生かしそれぞれにある社会的な役割や繋がり、創意・工夫、努力などに目を向けていけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できる限り地域の素材や人材を活かしていけるよう単元計画を立て、体験活動や交流活動の中で、自らの気づきを学びに繋げ、学習を深めていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地図を読み取る力は方位や地図記号の習得を含めてまだ不十分である。 ・資料や本を読むことはできるが、それをまとめたり、そこから考えたりすることを自分の言葉で表現することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識などは、きちんと積み上げていく必要があるため、他の教科でも、適宜地図記号や方位を活用し、日常で積極的に活用する。 ・本やインターネットを使って調べる時は、読み取りの視点を確認して読み取らせていく必要がある。表現の内容（読みとったこと、わかったこと、考えたこと、疑問など）、をチェックしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に自分で確認、活用させる。また、年間を通じて、社会科の授業にかかわらず、繰り返し話題に乗せ反復していく。生活に結び付いていることを体験させる。 ・関連書籍などをすぐに手に取れる環境の整備しておく。読み取りの視点（学習課題）を常に意識させる。学んだことを表現する段階を意識して自分の考えを整理させる。 ・インターネットを使って学べるように環境を整えていく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもち、伝え合える児童にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問や資料の選択、提示、活動形態などについて、授業内容に合わせて工夫していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合いの場の中から自分の考えをもてるように、授業内容に合わせて効果的な活動形態を工夫する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科に対する興味・関心がある児童が多い。 ・資料から、なぜ・どうしてと考えることが若干苦手である。 ・自分の関わらないことにおける関心が薄い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に興味を示しているが、それが最後まで持続させる必要がある。自分が疑問や課題をもち、継続的に問いに向き合えるように問題解決型の授業作りを進めていく必要がある。 ・資料の読み取り方に関して理解していない児童が多いので、読み取り方を指導する必要がある。 ・様々なものが関連し合っ地域や社会が形作られ、生活が成り立っていることを知り、自分との関わりの世界を広げていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入を工夫し、児童が興味をもてるような資料提示や実際の生活に即した話題を取り入れ、児童から出た疑問や知りたいことを学習問題に取り入れ、問いの継続から興味関心を引き出す。 ・資料やグラフの読み取りにおいて、本時の内容との関わりから着眼点を示して読み取らせる。また、そこから分かったこと、気付いたことを発表させて、理解を深めていく。算数、理科と関連させ、表やグラフの読み取りのポイントを日常的に意識させる。また、日常の話の中でも地図を多用して説明する。 ・調べ学習をする際、それぞれの仕事の内容や地域の特性、時代背景などを確認するとともに、その背後にある工夫や苦勞、人々の願いについて確認していく。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国土や日本の国土など、5年生になり学習した膨大な新しい情報に戸惑う児童が多く見られる。都道府県名や場所の理解が十分でないことで、さらに理解に時間がかかっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに確認しなければならぬ知識が多く、暗記指導になる場面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに学習内容を系統立てて把握し、それぞれの学習を関連させながら授業を組み立てるようになる。既習事項と比較させながら新しい知識を獲得できるようにする。 ・都道府県など既習事項を定期的に振り返る時間を確保する。

	<ul style="list-style-type: none"> 資料から必要な情報を読み取ることができない児童が多い。 情報を活用して問題をつくったり、問題解決し表現したりすることができない児童が多い。 社会科に対しての興味・関心がある児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の読み方を指導しながら授業を進め、どのように活用するのかを具体的に示す必要がある。 資料の読み取りだけでなく、社会に見られる課題を把握し、解決に向けてどのように行動していくべきか考えるようにする必要がある。 引き続き、児童の興味関心を引きつける授業展開（問題解決型の学習）を行っていくことを意識する。 児童の興味関心を引きつけたり、疑問をもてるような資料の選別をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料活用の充実に向けて、写真、表やグラフなどの読み取り方を指導したり、焦点を絞って資料から分かることを調べさせたりする。 友達と自分の読み取り方を比較させ、よりよい捉え方を学ばせる。 複数での相談タイムを設けるなど、自分の読み取り方を自由に発言できるような場の設定を行う。 興味関心をもてるような資料提示や発問の工夫をし、自分なりの考えをもたせる展開で授業を進める。また、問題解決をする手立ても児童自身に考えさせる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 歴史に対する興味・関心が高く、教科書や資料集を活用してすすんで調べようとする児童が7割ほどいる。また、日頃から読書を通して多くの知識を身に付けている児童もいる。一方で板書や友達の見を書き写すだけにとどまっている児童も2割いる。 資料から必要な情報だけを取り出す力が不足している。また、読み取った力が高い児童と低い児童の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の関心や目的意識を高め、主体的に取り組めるように学習問題や学習過程を工夫する必要がある。 資料を読み取るための基礎的な技量を高め、学習の目的に沿った資料活用を指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の疑問を生かした学習問題を設定し、主体的に問題を解決できるようにする。 追究結果を振り返り、新たな課題を見いだす活動をし、問題解決的な学習の充実を図る。 表やグラフなどの資料を読み取る基礎的な技術を指導し、定着を図る。 複数の資料を比較したり関連付けさせたりする活動を通して、情報の整理や分析の仕方を指導する。 資料の提示順や配置、提示方法（一部を隠して予想させる）などの工夫をする。

- 学習したことを表現することが苦手な児童が約4割ほどいる。調べた事実の意味、人物の思いや願い等を考え、表現することが課題である。

- 個々の事実を羅列的に確認するような授業ではなく、人物の願いと結び付けて考えさせることが必要である。

- 資料や追究方法に応じて解決の視点を提示し、根拠を明確にしながら調べたことの意味を考え、表現できるようにする。
- 歴史の人物の行動や願いを当時の人々の立場に立って考え、自分たちの生活と過去の出来事を結び付けることができるようにする。

(3) 算数科

算数科の重点

- ・基礎的、基本的な学習の定着を図る。
- ・既習事項をもとに筋道を立てて考え、自ら問題を解決しようとする力を身に付ける。
- ・自分の考えを、式や図、言葉などで分かりやすく表現する方法を身に付ける。
- ・発表・検討の場面を通して、問題解決の方法に多様な考え方があることを知る。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・数字の読み書きはできるが、計算の習熟に差がある。 ・たし算とひき算を混同してしまう児童が見られる。 ・文章題が読み取れず、正しく立式できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差が大きく、計算問題に慣れていない。 ・たし算の場面かひき算の場面かを確認する必要がある。 ・文章題のどの言葉が、どの計算になるのか意識できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に計算練習の時間を確保する。個別に対応が必要な児童には課題の出し方を考慮する。 ・問題の場면을言葉や図を基にとらえさせ、どんな式になるか落ち着いて考えてから取り組めるよう声をかける。 ・たし算やひき算のキーワードを意識できるように、線を引いてから立式するようにしていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ既習事項が定着していない児童がいる。そして、その児童は、算数への関心・意欲・態度が低い傾向がある。 ・「数と計算」の領域で、繰り上がり、繰り下がり の習熟が十分でない児童が多い。 ・「時計」の問題では、午前午後という言葉の意味や時刻と時間の違いなどを理解していない児童が多い。 ・文章を読んで、正しく立式することが苦手な 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数に苦手意識のある児童がいるので、「自分でも解けそう」「解いてみたい」と思わせる導入の工夫が必要である。 ・既習事項を振り返ったり、既習事項を生かして問題を解決したりする学習が不足している。 ・時間の学習から、実生活へ結びつける学習や経験が不足している。 ・与えられた文章や情報の中から、問題解決に必要な 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入や展開を工夫した上で、教具やデジタル教科書を用いて、問題場面や解決場면을視覚的に分かるようにする。問題を実生活に結びつけて考えさせやすいようにする。 ・自力解決の後に、必ず全体での練り上げの時間を設け、既習事項を全体で確認したり、友達の発言を聞いて、さらに理解を深めたりできるようにする。 ・家庭学習を中心として、基本的なたし算・ひき算の問題を繰り返し出して、習熟を徹底させる。 ・時計の学習での既習事項を積極的に学校生活の中で生かす。普段から時間を守らせ時間に対する意識を高める。そして時刻や時間を覚えることの必要性を認識させる。 ・文章問題の読み取りが苦手な児童や問題解決に時間を要す

	<p>児童がいる。</p>	<p>な要素を読み取ることが丁寧に進める時間が足りない。</p>	<p>る児童に対する個別指導の時間をできるだけ設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の中から立式するための根拠となる言葉を探すだけでなく、テープ図に示し、立式するための様々な方法を覚えさせる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の理解・定着が十分でない児童がいる。かけ算、繰り上がり繰り下がり計算、量と測定、図形においては差が大きい。 基礎的な学習内容の定着が難しい児童がいる。 文章問題が正しく読み取れず、立式できなかったり、答えられなかったりする児童がいる。 問題解決の方法に多様な考え方、求め方があることを知らない、理解できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の学習を繰り返す必要がある。家庭学習やサマースクールなどで積極的に既習事項のフォローを行う必要がある。 基礎的な学習内容の確実な定着が必要である。 文章中にある重要な言葉に注目させながら、問題を解いていく指導が必要である。 単元にもよるが、発表・検討の場面を通して、積極的に友人の考え方を全体で共有し、広げていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の初めに既習事項の確認を行う。また、家庭学習でも単元に関係なく、既習事項の復習を行うようにする。また、個人的な課題を踏まえ、単元の関連性を考慮して、基礎事項の確認、反復と捉え直しをしながら進めていく。少人数の教員や任期付き短時間勤務教員と連携し、家庭学習やサマースクールなどで積極的に既習事項のフォローを、今後も継続して行っていく。 任期付短時間勤務教員を加えて授業を2学級3展開とし、よりきめの細かい指導を目指していく。 文章を図や具体物、表や数直線などで表しながら、場面がイメージできるようにしていく。また、式から文章に戻って考えさせ、式と文章の関係性を具体的にとらえさせる。 検討の場面において、自分の考えた求める方法を発表させる機会を多く作る。また、その発表を聞いて別の児童に説明させることで理解を深めさせる。また、積極的に友人の意見を参考にできるようノートに記録させる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算はできる児童が多いが、単位忘れや計算ミスも多く、既習の学習内容の定着に個人差が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の復習をする時間を確保する必要がある。また、課題を個々に指摘し、反復させて身につけさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本のプリントや東京ベーシックドリルなどを活用しながら指導を行う。また、個別に到達度を確認し、評価し、支援していく。

<ul style="list-style-type: none"> ・作図をしている際に、道具の操作が苦手な児童が見られる。 ・自分の考えを発表する児童は増えてきている。学び合いの姿勢を高め、それぞれの考えを認め合い、発展させていく力を伸ばしていきたい。個人差が大きい 	<ul style="list-style-type: none"> ・作図のやり方を全体で確認した上で、繰り返し取り組む必要がある。 ・既習事項を基にして考える時間を十分に確保し児童が意見交流できる場を積極的に取り入れる。また、1案に取り組めた児童については、2案、3案と考えさせ、多様な思考に繋げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三角定規やコンパスなどを使って作図することを機会を作り、何度も練習する中で道具の使い方を確認していく。 ・一人で問題と向き合う時間を取らせ、どのように考えたのかを絵や図、言葉を使って考える習慣をつけさせ、友達に伝わるように説明できるようにする。積極的に意見交流できるように、ペアでの学習も取り入れながら、自信のない児童にも取り組ませる。
<ul style="list-style-type: none"> ・整数の計算技能については概ね定着している。5年生になり新しく学習した小数の乗法除法については四則計算が混合してしまう児童がいる。 ・学力が高い児童ほど、簡単な計算ミスをしている。 ・全般的に学力は二極化している。基礎学力の確実な定着に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学習内容が定着するまで、授業内で演習の時間を確保することが難しい。 ・素早く解く能力がある故に、ノートの字が乱れたり、書き間違いをする様子が見られる。 ・習熟度別学習の充実を図り、学習内容が身に付いていない児童に対しての丁寧な個別指導をする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項が授業内で定期的に復習できるよう、復習の類似問題から導入したり、小テストで確認をしたりする。 ・基礎・基本のプリントや東京ベーシックドリルなどを活用しながら指導を行う。 ・毎回ノート指導を行い、ノートのマスを守って数字を書いたり、繰り返し数字を怠らず書いたりする指導を継続的に行う。 ・習熟度別学習の利点を生かしながら、任期付短時間勤務教員による個別指導を丁寧に行ったり、友達同士で考え方の説明をさせたりするなど、理解度に合った学習を進める。 ・ドリル学習などで復習中心の学習を行い、基礎・基本の定着を図る。また、東京ベーシックドリルを活用し、4年生までの既習事項の確かな定着を図る。 ・基礎・基本の学習を学校だけでなく家庭でも積み重ねていけるようにする。

5年	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決する際に、既習事項を使って考えるという意識がほとんどの児童で定着している。しかし、自分の考えを書くことに抵抗感をもつ児童が少数だが存在する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決をさせる際には、全体で確認してから、既習の技能を活用して自力解決をさせるという授業構成を行う必要がある。また、必ず個人の意見をもった後に共有できるよう、自力解決の時間に教師が机間指導して解決のヒントを伝えるなどの支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決型の授業を進め、実践していく。その際、作図や計算のきまりなど、自力解決時に参考になる手立ての知識を児童自身が増やせるよう授業に取り入れ、問題解決前には全体で使えそうな手立てを確認する。 引き続き、課題解決型の授業構成を意識して指導を行っていく。また、児童に疑問をもたせながら授業を進め、その解決方法を児童自ら考えられるような実践を行う。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題や練習問題など、与えられたことにすすんで取り組むことができる。一方で自分の考えを表現しようとせず、友達が説明するのを待っている児童もいる。 整数の計算技能はおおむね定着しているが、小数、分数の乗法や除法については不十分な児童も3割ほどいる。また、定規やコンパスの適切な使い方が難しく、作図が苦手な児童も多い。 計算の意味を理解せず、問題に応じて四則計算を使い分けることが苦手な児童が3割いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語活動の充実と、児童が目的意識をもって主体的に取り組めるよう指導を工夫する必要がある。 小数や分数の乗法や除法については、数の仕組みや計算の意味に基づいて習熟できるようにする必要がある。 作図に関しては、算数以外の時間にも活用する機会を設ける必要がある。 習熟度別学習の充実を図り、学習内容が身に付いていない児童に対して線分図などを用いて視覚的に分かりやすく数量関係を捉えられるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近に使われている数量の関係を見付けたり、図形の性質を調べたりするなど、自分たちの生活に関わる学習課題を提示し、目的意識を高める。 キーワードや話型を示したり、ペアや小グループでの交流の機会をできるだけ設定したりして、考えを表現することへの苦手意識を取り除いていく。 整数の計算の仕方を活用し、小数や分数の乗法や除法も同じように処理できることを確認する。また、東京ベーシックドリルを活用し、計算の意味を押さえながら繰り返し練習させる。 作図に関しては、用具を正しく使えるように復習するとともに、学習や生活の場面で活用し、習熟を図る。 異なる二つの数量の関係を線分図に表す活動を継続し、1に当たる大きさの意味が理解できるようにする。また、立式の根拠を説明する活動との関連を図りながら指導する。 習熟度に応じてベーシックドリル等を活用しながら、反復練習に取り組ませる。

(4) 理科

理科の重点

- ・自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行う。
- ・自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育てていく。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・理科に対する興味・関心の高い児童が多い。 ・ある事象に対して、生活経験などを基に予想したり実験の方法を考えたりすることに個人差がある。 ・観察や実験にはとても意欲的に取り組むが、結果から考察し、まとめることが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心を生かして取り組んでいけるよう工夫する。 ・課題に向き合うとき、常に予想して取り組めるように発問を工夫するとともに、一度体験させ全員が根拠をもって予想できるように手立てをする必要がある。根拠をもって予想させたり、実験を考えさせたりする必要がある。 ・考察する際の視点や、書き方の例などを共有させるなどの支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験等を多く取り入れ、問題解決型の授業を行い、興味・関心を持続していく。 ・実物を見せたり、写真や映像を用意したりして、実験に取りかかる前の準備を大切にす。論理的思考につながるように自分が考えた予想の根拠を問う。 ・実験、観察のポイントを明確に示す。手順に沿って考えていくこと、自分の気付きを大切にし、分かったこと、そこから生まれた疑問を考察させる習慣を身に付けさせる。また、友達の表現を見合ったり、児童の言葉を使ってまとめたりしながら、よりよい表現に触れる機会を増やしていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験には意欲的に取り組み、実験結果を見て、どんな結果が得られたのかをとらえることはできるが、実験の結果や考察を文章でまとめたり、伝えたりすることに苦手意識を感じている児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を正しく捉え、それに対して何を答えるかを意識できるように、観察や実験の目的を振り返ってから、実験結果や考察をまとめていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・注目する観点を明確にしなが、観察や実験を行うことができるように、課題提示や実験結果の記録の仕方を児童にわかりやすいものにする。 ・グループでの発表を行い、表現の仕方を色々と知る機会を作り、まとめでは児童の言葉を使うことで、よりよい表現に触れる機会を増やしていく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題においての予想を立てて、授業に向かう姿勢を身につけさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元学習の導入、学習問題、学習計画作りを大切にし、今何を学ぶのかを意識して学習を進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で疑問、問い、予想を出し合い、共有化して実験や観察に取り組みさせる。予想や疑問の解決が学びであることを意識させる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察は意欲的に行う児童が多い。 ・結果の記録が疎かになる児童がいる。 ・予想を立て、実験方法、結果、考察までの流れを意識して実験をしている児童は少ない。 ・身の回りの自然事象と学習内容を結びつけていない児童が多くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も実験、観察などを授業に取り入れ、活動の楽しさや正しい器具の使い方、観察の仕方を指導し続ける必要がある。 ・目的意識をもって実験に取り組み、記録方法についても教師が適切に確認する必要がある。 ・予想から考察までの流れは理解しているが、板書を写すだけで、自分の考えを追加したり、分かりやすく書いたりすることに課題がある。 ・条件が制御された実験のみに注目させると、児童は身の回りで起こっている自然事象との関係性に気付くことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験については器具も増え、より安全な活動が求められるので、集中して行うよう指導する。個別に実験や観察ができるよう、教科書に準拠した教材を揃えていく。 ・実験に取り組む前に、必ず予想や見通しをもたせるよう場面を確保する。また、記録は机間指導や添削をして細やかに指導する。 ・教師が単元の最初には、児童が解決したくなるような導入を工夫し、児童が主体的に問題解決できるようにする。 ・予想や考察を意見交換し、友達の意見を聞いた上で自分の意見を深めるようにする。 ・導入や終末では、日常生活の事象を紹介したり、学習したことを踏まえて考えたりする時間を確保する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験を意欲的に行う児童は多い。しかし、正しく実験を行うための十分な技能を身につけることができていない児童もいる。 ・実験結果から推論して、自分の考えをもつことができる児童もおり 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察など実体験を用いた学習を行う際、問題解決型の学習になるよう何のための実験なのかポイントをおさえて授業を行う必要がある。また、実験や観察の用具、器具の取り扱いについて丁寧に指導する必要がある。 ・問題把握や実験計画を明確にし、何を調べるための実験なのかをおさえ、 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生までに行ってきた実験・観察方法を振り返られるもの等を用意したりしながら、身の回りの事象・生活体験をもとに仮説を立て、実験方法を考える活動を行う。 ・児童が主体的に学習に取り組めるように、「問題把握→仮説→計画→実験→結果→考察→まとめ」という問題解決型の学習の流れを基本に授業を進める。 ・映像や図などを使って、その仕組みを分かりやすく説明したり、言葉やその関係を整理

が、根拠を明確にして論ずることが難しい児童もいる。

問題解決型の学習の流れを定着させる必要がある。

したりして確認する。
・問題解決型の学習の流れを基本に授業を進め、児童の科学的思考を身に付けさせる。
また、実験や観察を行う前に、どのように結果が出れば良いか全体で確認を行うとともに、考察前に定型文やキーワードを提示するなどの支援を行う。

(5) 生活科

生活科の重点

- ・具体的な活動や体験を通して、身近な人々や社会、自然とのかかわりに関心をもつ。
- ・科学的な見方や考え方の基礎を培うとともに、自然の不思議さや面白さを実感する。
- ・身近な人々、社会、自然とのかかわりを通して、自分のよさや可能性に気付く。
- ・見付けたことや気付いたことを自分なりに表現し、身近な人々と伝え合う。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・体験や活動を自分なりに工夫しながら楽しむことができる。現状、友達とも適切に関わることが難しい。 ・植物や昆虫など、自然のものに興味・関心が高い児童が多い。一方で、自然と触れ合う経験が少ないためか、個人差がある。 ・自分の思いに終始してしまい、気付きが深まらない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防の為、友達との関わりなど活動に制限をせざるを得ない。 ・身近な環境 (校庭や公園) に自然が少ない。 ・様々な視点で物事を見る力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・付箋を使ったり、電子黒板を使ったりして、自分の考えを発信したり、友達の考えを受け止めたりしながら、関わりがもてるようにする。 ・自然について話し合わせ、全体に興味をもたせた上で、校内のなかでも、自然と触れ合える時間を設ける。 ・授業のねらいを明確にし、視点を分かりやすく提示する。良い気付きをしている児童については、全体に広げたり、また深めたりしていくことで、児童間で共有できるようにする。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と身近な人や1年生と、積極的に関わろうとする児童と、関わり方が分からない児童との差が大きい。 ・自然とのかかわりとして、「生きもの大すき」の単元では、校内で自分で採集した虫について調べ、世話をするなど、意欲的に学習に取り組めた。 ・活動は楽しめるが、気付きが深まらない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々や年長者、年少者と関わる機会が少ない。 ・身近な環境に自然が少ない。 ・児童の気付きが生まれるような声掛け、発問の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町探検などで地域の人々と積極的に関わる機会を設け、言葉遣いや公共の場での過ごし方など、気を付けるべき点を学ばせる。 ・1年生と一緒に活動したり、発表の成果を伝えたりする学習を設定し、目的意識をもって活動に参加できるようにする。 ・清掃前のプールからヤゴを捕まえたり、校内の池にいる生きものを紹介したりするとともに、調べた生きものについて新聞を作り友達に伝えたりすることで、様々な生きものに興味を持てるようにする。 ・良い気付きをしている児童の発言を全体に広げる。

(6) 音楽科

音楽科の重点

・表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成する。

※状況に応じて変更する場合があります。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲を聴いて感じたことを自分の言葉で伝えることができる。 ・拍やリズムが取れない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拍感やリズム感を養う活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わらべうたなどの親しみやすい曲を使用し、身体表現を取り入れる等の常時活動を充実させる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・拍を感じながら音楽を聴いたり身体表現したりできる。 ・楽曲を聴いて感じ取って身体表現することはできるが、言葉で表現したり友だちに伝えたりすることが苦手な児童がいる。いよくが ・友達と音を合わせて合奏したい意欲がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発表を知ったこと、感じ取ったことを教師の言葉で繰り返し価値づけ、クラス全体で共有する場面が不足している。 ・いろいろな楽器に触れる機会が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の語彙を増やしていかれるような学習場面やワークシートの工夫。 ・伝え合い、共有しあう活動を充実させる。 ・簡単な楽曲を通して、いろいろな楽器に触れたり友達と音を合わせて合奏を楽しむことができるよう機会を設ける。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・始めたばかりのリコーダー学習では、意欲的に学習に向かっている。 ・友達と音を合わせて合奏したい意欲がある。 ・鑑賞の活動から、違いや良さを感じ取る体験がまだ不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな楽器に触れる機会が少なかった。 ・楽曲を何度も聴かせる工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な楽曲を通して、いろいろな楽器に触れたり友達と音を合わせて合奏を楽しむことができるよう機会を設ける。 ・興味関心の持てる楽曲の選択を工夫する。 ・楽曲を聴く切り口や取り掛かりの方法を示し理解して聴かせる。

4年	<ul style="list-style-type: none"> ・集団としての表現の良さに気付き始めている。 ・鑑賞の活動から、違いや良さを感じ取る能力が高まりつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能定着の差が激しく、苦手意識を持ち、表現する意欲に減退が見られた。 ・楽曲を聴き、感じたことは記入できるが、知覚と感受の区別する能力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップで確実に技能を積み上げる工夫をする。 ・楽曲を聴く切り口や取り掛かりの方法を示し、理解して聴かせる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・聴きあい、合わせようという意識が高まりつつある。 ・鑑賞から表現、表現から鑑賞へ生かすという思考の過程が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時数の少ない中、技能差に対応した指導方法、時間の確保が難しい。 ・どの部分をどのように関連付けて聴かせるかをうまく提示できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力にあったものを選択できる教材を用意し、周りと合わせられるようにする。 ・楽曲にふれる、聴き深める、味わう、活動を関連付けて工夫するこの流れをしっかりと学習過程に位置付けて指導する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞から表現、表現から鑑賞へ生かすという思考の過程が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの部分をどのように関連付けて聴かせるかをうまく提示できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲にふれる、聴き深める、味わう活動を関連付けて工夫するこの流れをしっかりと学習過程に位置付けて指導する。

(7) 図画工作科

図画工作科の重点

・表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成する。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・見本を見て真似をしながら、自分の思いを膨らませて、楽しみながら作品を作ることができる。 ・はさみやのりなどの道具の使い方の習得が不十分な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はさみやのりなどの道具をを使って活動する場面を多く設定する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手や体全体の感覚などを働かせて道具を使い、繰り返し活動をさせる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・造形活動を好み、楽しんで活動できる児童が多い。 ・指示を聞き取って自ら活動することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が理解しやすい課題提示と児童主体の活動内容の提示が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して考えたり、結果にこだわらずに様々な方法を試したり、発想が次々と展開したりすることができる、具体的な活動内容を提示する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・図工を楽しみながら取り組むことができる児童がほとんどある。 ・自分の夢や願いを表現したり想像したりすることを楽しみながら表現することができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動が思うように進まない児童への支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料から場所を考えたり、活動する場所にある材料を活用したりするなど、試しながら発想が広がるように材料や場所と十分に関わる活動をさせる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しんで活動し自分なりに表現する児童が多い。 ・自分のイメージについて説明したり、自分の表現を一定のイメージでまとめたりすることが困難な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見つけることが困難な児童への支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的な資料や題材の提示をしたり、イメージが明確になるまで、試しながら表したり、表しながら確かめたりする活動を繰り返させたりする。

5年	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な作品作りをする児童が多い。 ・どのように主題を表すか考え、活動することが困難な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形がつくりだす動き、その組み合わせによる変化、形や色の配置、奥行きを感じさせたり、主題の表し方を計画させたりする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・じっくりと構想する場を設定したり、子どもが現在困っているのか、深く考えているのかを見極め、個別に指導したりする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・興味や関心が高い児童が多い。 ・表現力や作業の遅速の個人差が大きくなってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味、関心の差に配慮しながら題材を設定し、学び合えるような学習の場を設定する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他との感じ方の違いを理解できる題材を設定したり、友達の活動を見て、自分に振り替えることができる指導の工夫をしたりする。

(8) 家庭科

家庭科の重点

・衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けると共に、家庭生活を大切にする心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
5年	<ul style="list-style-type: none"> 整理整頓など学習した際には、日常生活に生かそうとする児童が多く見られるが、意欲が継続しない児童が多く見られる。 調理や裁縫の経験の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活で行動で見られるところが限られ、家庭生活で活用できることに関しては指導が限られる。 振り返りカードの活用のしかたを工夫し、家庭でどのように生かしていくかを考えさせる必要がある。 安全面・衛生面に十分配慮して指導を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りカードに学習内容を家庭でどのように生かすかを記入するスペースを作り、実践記録も残すようにする。 学級通信を利用し、学習の取組を家庭に知らせ、家庭でも実践する場を設けてもらえるよう促す。 必要に応じて個別指導を行う。 火や刃物、針の使用については落ち着いて行うよう丁寧に指導する。 実習計画書を児童自身につくらせるなど、児童自身が見通しをもって作業を行える授業展開を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心をもって調理実習や裁縫に取り組んでいる児童が多い 調理実習や裁縫などの技能面では、家庭での経験の違いや手先の器用さから個人差が大きい。 裁縫ではデザインを工夫して作業を進めることに楽しさを感じながら取り組む姿が見られるが、学習したことを身近な生活に活用しようとする児童は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も安全面・衛生面に十分配慮して指導を行っていく必要がある。 作業スピードの個人差が大きい。 学校で学習したことを、実際の家庭生活で活用し、生活をよりよくしていくようとする意識を高めて行くための授業後の取り組みや授業の振り返り方の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全と衛生には十分な配慮が必要であることを繰り返し指導し、道具や器具を丁寧に扱い、不注意によるけがや事故がないように努める。 実習計画書を児童自身につくらせ、児童自身が見通しをもって作業を行える授業展開をする。 日常生活に役立つ基礎的な技能は実技を中心として指導する。活動計画を立てさせて、見通しをもって取り組ませる。また、学んだことを自分の生活に取り入れるための振り返りワークシートを作成し、生活実践を記録させる。

(9) 体育科

体育科の重点

- 運動の楽しさや喜びを十分に味わわせる。
- 走る、跳ぶなどの運動で、体を巧みに操作しながら、合理的で心地よい動きを身に付けることができるように、「陸上運動系（走・跳の運動）」の充実を図る。
- 体全体を長く動かすことができるようにするために、ランニングやサーキットトレーニングなど、「全身持久力」を高める運動の充実を図る。
- 自分の力に合っためあてをもって、運動に取り組むことができるようにする。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> • 体を動かすことが好きな児童が多いが、中には体の動かし方がぎこちない児童が見られる。 • 運動が得意な児童もいるが、苦手な児童も見られる。 • 体を動かす機会が少なく、筋持久力が低い児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> • 体のどこを動かすか分かっていないことがある。 • 運動が苦手な児童でも、運動を楽しんで行えるような場の工夫を意識した指導が必要である。 • 筋持久力が低く、疲れやすい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 友達同士で見合いながら、体のどこを動かすと良いかを伝えていく。 • 楽しい体づくり運動を取り入れて、運動することの気持ちよさを味わわせ、基礎体力を身につけさせる。 • 体づくり運動やマット運動を通し、筋力や持久力を向上させる活動を多く取り入れる。
	<ul style="list-style-type: none"> • 運動に対する関心・意欲が高い。しかし、個人差もある。 • 基本的な体の使い方、動かし方が分からない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 日常生活の中で、運動遊びに触れる機会を増やす必要がある。 • 体づくり運動を通して、体力を高める必要がある。 • 体を動かすポイントを意識した指導が必要である。 • 運動の日常化を図り、運動量を増やす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • いろいろな体づくり運動を取り入れたり、友達との関わりを増やしたりして、運動することの楽しさを味わわせていく。 • 学習カードを使ったり、様々な運動の場を用意したりする。 • 体育の授業中、児童一人ひとりの運動量を増やし、運動の特性を味わわせながら、意図的に筋力や持久力を高める運動を多く取り入れる。
	<ul style="list-style-type: none"> • 運動に対して苦手意識をもっている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 運動の日常化を図り、運動に親しむ機会をつくる必要がある。 • 成功体験や友達に認めてもらった経験を積み重ねながら、進んで運動に取り組もうとする態度を育てる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 外遊びの仕方を紹介したり、体育の学習で学んだことを活かしたりできるような機会を用意しながら、体育の学習以外の場面でも運動に取り組めるようにする。 • 児童がスモールステップで取り組める工夫を取り入れ、成功体験を積み重ねる。

	<ul style="list-style-type: none"> 友人の動きを見て、よい動きを見つけたり、自分で課題を見つけたりする力が乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な視点やポイントなどを児童に伝え、共有していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループで互いの様子を見てアドバイスをしながら、コツを掴んで高めていけるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染症対策による制限があり、運動の機会、運動量が減少している。 個人差はあるが、運動に対する関心・意欲が高い児童が多く、諦めずに取り組む態度が見られる。 ボールゲームやゴール型ゲームなどで、仲間との連携の動きや自分の役割を意識してゲームに参加したり、自分のめあてをもって参加したりしている児童は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の日常化を図り、運動に親しむ機会を意識的につくる必要がある。 児童の興味関心が積極性と集中力に繋がるように、場の設定や具体的な例示と評価を個人の進度に合わせて計画的、継続的に行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業の中で毎時間、ストレッチや簡単な反復運動を取り入れ基礎体力を高める。また、ストレッチや筋力アップの運動、簡単なダンスなどを紹介して学習以外の場面でも運動に取り組めるようにする。 個の能力に応じた運動ができるように、学習活動や運動の場を工夫する。また、児童の取り組みを多くの機会に評価し、模範例を多く示すことで次の段階へのステップアップの意欲に繋げ、自分の段階を確認させる。 体力向上月間でも目的意識をもって取り組めるようにするとともに、活動がその期間で終わってしまうのではなく、継続していけるように、学年や学級の指導の仕方を工夫する。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策により体を動かす機会が減り、ほぼ全ての児童が運動不足の状態である。 新体力テストの50m走やソフトボール投げでは、去年と比較して記録が下がった児童が多くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間や授業内で取り組むことができる運動にも制限があるため、日常的に体を動かす習慣をつける必要がある。 外遊びに関しても遊ぶ児童、遊ばない児童と分かれているので、休み時間の声かけもする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 短縄や表現運動など、個人でできたり、小さいスペースでできたりする運動を紹介し、放課後の時間にも取り組むよう提案する。 体育の授業でも持久力や走力などが高まるよう、基礎的な運動を継続的に取り入れていく。 タブレットなど電子教材を活用し、客観的に振り返る機会を設け、技術の習得を図れるようにする。

6年

- ・運動する機会が減り、体力低下を感じている児童が大変多い。運動は好きで、機会があれば体を動かしたいという児童が大半である。
- ・よりよい動きへの工夫や、作戦の試行錯誤など、思考と運動を連動して考えている児童は少ない。

- ・児童の運動量を増やし、基礎体力を高める指導の工夫、長い時間運動を続けたり、軽い負荷を与えた状態で素早く動いたりする活動が必要である。
- ・ルールや基本的な動きを理解し、よりよい動きや作戦につながる素地を作ることや、考えを交流させることにより、活動への見通しをもたせることが必要である。



- ・日常的に体づくり運動やサーキットトレーニングなどを取り入れ、基礎体力を高める。
- ・指示を簡潔にし、活動時間を十分に確保する。
- ・運動が得意な児童とそうでない児童の組み合わせ(小グループ)で、教え合いの場の設定をしたり、スモールステップを活用し、自分に合った運動や練習方法を考えさせながら取り組ませたりする。また、学習カードを積極的に取り入れて、自分の課題、仲間との協調、目標を明確にさせ、活動に取り組ませることで、自己評価とともに、周りの友達からの他者評価も取り入れる。